

Ⅱ 部門別活動報告

緩和医療科

緩和医療科長 平野 拓司

「いつでも、どこでも、その人らしく。～磐井病院緩和医療科～」

歴史的には、『寿命が迫ってきた時』の、特に『疼痛緩和』として“緩和ケア”が発展してきました。しかし、現在は、『診断された時からの全人的苦痛緩和』が、緩和ケアの基本とされるようになりました。

『磐井病院 緩和医療科』では、終末期はもちろん、抗がん剤治療中などでも、苦痛を和らげるお手伝いができれば、と考えています。“（基本的）緩和ケア”は、主治医の先生方によって行われておりますが、症状緩和に難渋する症例や、精神的な不安が強い患者さんについては、『緩和医療科』でもお手伝いをさせていただき、抗がん治療がより落ち着いて施行できれば、と考えております。また、大きな症状がない時期から受診していただくことにより、“緩和ケア＝末期、という誤解“＝『緩和ケアへの障壁』を取り除くことができると考えております。

人生の最終段階における苦痛緩和は、そう容易ではないかもしれません。その時期をどのように過ごすかは、その人の、それまでの生き方を映しているのでしょう。『その人らしく』、を大切に、悩み、葛藤さえも、『その人らしさ』と考え、その苦しみに静かに寄り添いながら、少しでも光が見えてくれれば、と思っています。

緩和ケア病棟でも一般病棟でも、自宅でも施設でも、地域の医療機関・介護施設などと連携しながらこの地域の緩和ケアを支えたいと思います。地域と連携しながら、状況に応じて当科からの訪問診療も行っております。

（なお、“緩和ケア”の考え方は、「がん」に限らないのですが、“緩和ケア病棟”は診療報酬上、現在は、「がん（悪性腫瘍）」（と AIDS。磐井病院では実績はありません）の患者さんに限定されています。）

<診療実績>（2021 年度（令和 3 年度））

●緩和医療科外来

令和 3 年度の外来受診患者数は、のべ 1,004 名受診（1 日平均 4.1 名/平日 243 日）

※新患患者数 15 名（うち、他院からの紹介 11 名）

●緩和ケア病棟

令和 3 年度入院数 入院患者数 220 名、退院患者数 203 名、うち死亡退院患者数 153 名、1 日平均入院患者数 15.6 名

●緩和ケアチーム

令和 3 年度の依頼患者数 149 名

緩和ケア病棟入棟希望・緩和医療科外来受診希望の場合

主治医の先生が紹介を希望された場合や、患者さんが受診を希望された場合 →「磐井病院 地域医療福祉連携室」あてにご連絡ください。あるいは、直接担当医（平野拓司）宛にお気軽にご相談ください。

医療関係者の皆様へ

緩和ケア病棟の見学、緩和医療科での研修は、いつでもご連絡ください。ご相談の上、できるだけご希望に添って受け入れたいと思います。当院の緩和ケア病棟は「日本緩和医療学会認定研修施設」、日本ホスピス緩和ケア協会の認証制度の「認証」を受けています。

文責 平野拓司

呼吸器内科

呼吸器科長 駒木 裕一

令和3年度も常勤医1名で外来、入院診療を行っております。

主として気道疾患(気管支喘息、COPD)、感染症(肺炎、胸膜炎、抗酸菌症など)、腫瘍(肺癌、胸膜中皮腫、胸腺癌など)の診療にあたっています。両磐地区で肺悪性腫瘍の診断、治療を行える施設が当院を含め限られており、症例が集中しています。

<診療実績>

- ・外来患者延数 5,267 名
- ・入院患者延数 6,645 名
- ・気管支鏡 128 件
- ・胸腔ドレナージ 50 件
- ・胸腔穿刺 52 件
- ・化学療法 入院 44 件、外来 407 件

消化器内科

第一消化器内科長 横沢 聡

当科は岩手県南から宮城県北にわたる医療圏において、消化器疾患や糖尿病症例を中心として急性期医療を中心に診療を行っております。

診療を担当するスタッフは横沢聡、千手倫夫、小川千恵子、本田純也、横山直信の5名の医師であり、さらに当科所属内科専攻医として牛山心平（他施設に出向中）、松下良が在籍しております。

<診療実績> 検査・治療件数（令和3年4月～令和4年3月）

上部内視鏡検査	2,373 件
食道・胃EUS	71 件
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	5 件
食道狭窄拡張術（拡張用バルーンによるもの）	17 件
食道ステント留置術	8 件
食道APC（止血）	3 件
食道APC（腫瘍切除）	
内視鏡的硬化療法	7 件
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	12 件
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	7 件
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術 （早期悪性腫瘍粘膜切除術・粘膜下層剥離術）	62 件
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ粘膜切除術）	2 件
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	0 件
内視鏡的消化管止血術	62 件
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	6 件
内視鏡的胃、十二指腸狭窄拡張術	6 件
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術）	31 件
胃アルゴンプラズマコアグレーション（止血）	14 件
胃アルゴンプラズマコアグレーション（腫瘍切除）	
小腸結腸内視鏡的止血術	10 件
小腸・結腸狭窄部拡張術（内視鏡によるもの）	0 件
小腸ファイバースコピー（カプセル型内視鏡）	12 件
小腸ファイバースコピー（その他）	0 件
下部内視鏡検査	1,413 件
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	276 件
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	71 件
下部消化管ステント留置術	30 件

大腸A P C（止血）	0 件
注腸検査	27 件
肝T A E（T A C E）	21 件
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）	3 件
内視鏡的胆道ステント留置術	95 件
内視鏡的胆道拡張術	3 件
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	38 件
内視鏡的乳頭切開術（胆道碎石術を伴うもの）	4 件
内視鏡的胆道結石除去術（胆道碎石術を伴うもの）	3 件
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	7 件
胆嚢外瘻造設術	9 件
経皮的胆管ドレナージ術	13 件
経皮経肝胆管ステント挿入術	2 件
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（E N B D）	8 件
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	2 件
大腸E U S	0 件
内視鏡的膵管ステント留置術	26 件
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	68 件
腹部エコー	886 件
造影超音波	0 件

循環器内科

第1循環器内科長 小野寺 洋幸

<循環器救急診療>

循環器疾患は救急患者が多いことが特徴です。当科は岩手県南の地域中核病院として専門的診療に必要な循環器疾患患者が来院、またはかかりつけの医療機関から紹介された場合、迅速に対応いたします。特に緊急性の高い急性心筋梗塞などに対しては24時間対応できるよう努力しております。

<高度診療>

心臓カテーテル検査を中心とした冠動脈疾患の精密検査、経皮的冠動脈インターベンション、ペースメーカー移植術などの高度診療を積極的に行い、エビデンスに基づいた質の高い医療を提供します。

<動脈硬化性疾患の予防>

二次予防の観点から動脈硬化の評価、食習慣・生活習慣の指導、糖尿病・高血圧症・脂質異常症など危険因子の管理・指導を行ない地域住民の健康増進をはかります。

<病診連携>

当科では上記のように救急診療や高度診療に力を注ぎたいと考えており、病状が安定した時点で紹介元や開業医の先生での治療継続を勧めております。なお、定期的な専門診療や病状が不安定化した際は当科で対応させていただくよう、連携を進めていきたいと考えております。

<対象となる疾患>

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧症、動脈硬化症 など

<施設認定>

日本内科学会認定教育関連病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

<診療実績>（令和3年度）

冠動脈造影	178 件
経皮的冠動脈インターベンション	81 件
経皮的腎動脈形成術	0 件
恒久的ペースメーカー移植・交換術	45 件
大動脈バルーン・パンピング	28 件
下大静脈フィルター留置術	0 件
心嚢ドレナージ	2 件
心エコー	1,895 件

頸動脈エコー	18 件
腎動脈エコー	11 件
ホルター心電図	615 件
トレッドミル負荷心電図	236 件
心臓核医学検査	9 件
冠動脈MDCT	54 件
睡眠時ポリグラフィー検査	15 件

小児科

小児科長 丸山 秀和

<特徴>

当科は両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療の中核として一般外来、慢性外来、乳児健診、予防接種、時間外診療、および入院業務を行ってきております。診療応援をいただいております先生方にはこの場をかりて感謝申し上げます。

外来は、月・火・木・金曜日の午前中は一般外来を行っております。近年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、当科を受診される患者数自体は減少しておりますが、新型コロナウイルス感染症防止対策と致しまして、発熱等を認める患児につきましては原則発熱外来として小児科外来とは別の場所で診療を行う必要があり、対応に時間を要するため却って一般外来につきましては煩雑な状況のため今まで以上に多忙な状況となっております。

月曜日の午後は予防接種、水曜日は全日乳児健診（午前中は6～7ヶ月・1歳児健診、午後は1ヶ月健診）、火・金曜日の午後は慢性疾患外来の診療を行っております。

入院につきましては、気道感染症、急性胃腸炎等急性疾患や気管支喘息発作といった疾患の入院が多くを占めました。その他、熱性けいれん、てんかん、川崎病等様々な疾患の入院がありました。

両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療につきまして、慢性疾患外来や入院業務を中心とした同地域における中核的な役割を担った医療を今後とも継続して提供していけるように心がけていきたいと存じます。

<診療実績>（令和3年度）

入院患者延数	3,606 件	外来患者延数	8,156 件
当年度入院	633 件	新 患 数	1,698 件

新生児科

新生児科長 天沼 史孝

新生児科

<特徴>

当院新生児科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州市から宮城県北(栗原市、登米、気仙沼)にわたる医療圏を有しています。

在胎 28 週からの新生児入院に対応しており、平成 23 年 4 月に岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営が開始されました。

より良い医療、安心、安全を提供するため週 1 回の新生児科、産婦人科および病棟スタッフとの周産期カンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。

<対象となる疾患>

早産児、低出生体重児、呼吸障害、感染症、新生児黄疸、低血糖症、先天性心疾患、染色体異常等の疾患

<施設認定>

日本小児科学会専門医研修関連施設
日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
岩手県地域周産期母子医療センター

<蘇生法講習会>

毎年、1 回の日本周産期・新生児医学会認定の新生児蘇生法講習会(専門コース)を開催しており、平成 27 年からは研修医必修の講習会に位置づけられ初回の講習会を開催した。県内研修医や救命救急士、消防士の方にも参加して頂いています。

<診療実績> (令和3年度)

入院 831 人

超低出生体重児	0 人	極低出生体重児	1 人	低出生体重児	48 人
新生児黄疸	51 人	感染症	77 人	低血糖症	17 人
先天性心疾患	2 人	染色体異常	1 人	その他	634 人

外来 1,012 人 (新患 42 人)

シナジス接種適応患儿	249 人
その他、慢性外来(健診・予防接種など)	5,680 人

<スタッフ紹介>

医師名	専門分野	主な資格
天沼 史孝	新生児医療	日本小児科学会認定医・専門医 認定小児科指導医
		日本周産期新生児医学会 新生児蘇生法 NCPR インストラクター
		日本DMAT隊員 災害時小児周産期リエゾン
		ICD制度協議会 ICD(感染コントロールドクター)
		厚生労働省 臨床研修指導医

外科

副院長兼消化器外科長 阿部 隆之

外科

当科は、「がん連携拠点病院」を標榜している磐井病院にあって、特に消化器系、乳腺甲状腺の悪性疾患において、「がん」診療の中心であり、昨今は低侵襲手術、最新の化学療法（免疫療法を含む）、放射線治療など、「がん」の集学的治療の司令塔的役割を担っております。

2020 年は初頭から、未曾有の新型コロナウイルス感染症によって、当科でも鼠径ヘルニアや無症候性胆嚢結石症などの良性疾患だけでなく、早期がん患者にも例年になく待機時間をお願いしなければならない時期がありましたが、医師・看護師を含めたスタッフの努力によって、例年と変わらない手術数を施行できたことは感謝に堪えません。

- ① 胃癌、大腸癌、食道癌、肝腫瘍、肺腫瘍、ヘルニアなどの鏡視下低侵襲手術が可能なスタッフが揃い、より高度低侵襲な手術の提供を目指しております。2020 年から 3dimension カメラをそろえ、鏡視下手術の効率性、安全性が高まると考えております。
- ② 乳癌は、月 2 回、東北大学総合外科乳腺内分泌外科、石田孝宣教授他 1 名の診察が行われ、最新の知見による乳癌治療を行っております。
- ③ 院長、佐藤耕一郎が乳腺専門医資格をもち、当院形成外科専門医との協力で、乳癌術後乳房再建が可能な病院である。
- ④ 東北大学腫瘍内科、石岡千加史教授、東北医科薬科大腫瘍内科、下平秀樹教授が月各 1 回の腫瘍内科外来診察があり、より最新の化学療法を指示いただいております。また、難治性の腫瘍については、東北大学の治験にも参加しております。
- ⑤ 化学療法に経験のある医師を揃え、最新の免疫チェックポイント阻害薬についても多数の患者への使用経験があります。
- ⑥ 胆沢病院血管外科チームと協力し、急性の血管病変にも対応しております。

< 診療実績 > : 2021 年手術件数 (2021 年 1 月-2021 年 12 月) ()は内視鏡手術

総手術件数		732 件	緊急手術		166 件
成人ヘルニア【15 歳以上】		82 件	結腸癌		66 件
小児ヘルニア		12 件	直腸癌		46 件
内分泌	甲状腺悪性腫瘍	8 件	肝臓悪性腫瘍		16 件
	甲状腺良性腫瘍	3 件	膵臓	膵頭十二指腸切除	3 件
乳腺	乳癌（温存）	17 件		その他の膵切除	8 件
	乳癌（全摘）	27 件	胆道	胆嚢摘出	96 件
呼吸器	肺悪性腫瘍	1 件			
食道癌		4 件	虫垂切除		51 件
胃腫瘍(癌)	全摘	12 件	腸閉塞		59 件
	部分切除	19 件	汎発性腹膜炎		9 件
	GIST・その他	0 件	外傷による開腹手術		件

今後、

- i) 進行癌についても、十分な根治性を維持しつつ、内視鏡手術適応を拡大し、より低侵襲手術を提供するため、外科医の技術修練を継続いたします。
- ii) 高齢患者の手術にも低侵襲な治療を選択し、かつ、地域の医療機関、介護施設との連携を密にし、患者の意に沿う治療法、治療場所を提供いたします。
- iii) PFM（患者フローマネージメント）を多職種で進め、術前術後患者の早期回復を目指します。

文責 阿部隆之

整形外科

第1 整形外科長 中村 聡

<特徴>

整形外科では、いわゆる「運動器」の疾患・外傷を扱っています。首から下、足の先までの骨、関節、筋肉、神経などが対象になります。

現在の常勤医師は4名で、月・火・水・木の午前に外来診療を行っています。完全予約制ですが、予約されていても急患対応や緊急手術などでお待たせすることがあります。金曜日を主な手術日としていますが、平日は毎日手術を行っているのが現状です。

交通事故、労災事故、転倒による外傷など、手術が必要になりそうな患者さんは基本的に全て受け入れており、良好な機能回復を目指して手術を行っています。手術は年間約600件行っていますが、一昨年から両磐地区で整形外科手術を行う病院が当院だけになり、手術件数が急速に増え続けています。最も多いのは高齢者の転倒による大腿骨頸部骨折です。高齢者は内科的な疾患を合併している人も多いのですが、他科の協力も得て、できる限り安全に手術を行うように努めています。また、この骨折ではリハビリを含めて一般的に2ヶ月前後の入院が必要になりますが、急性期病院の当院では長く入院することが困難です。そこで、「大腿骨頸部骨折地域連携パス」を導入し、地域のリハビリ入院ができる複数の医療機関と連携し、より高いレベルまで回復できるように取り組んでいます。

2020年度からは脊椎外科医が着任し、脊椎疾患（頸部脊髄症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア等）の手術治療も行っています。2椎間までの頸椎、腰椎疾患に対しては脊椎内視鏡による低侵襲手術を行っています。

股関節手術（人工股関節置換、人工骨頭挿入）は術後脱臼のリスクが少ない仰臥位前方アプローチで行っています。

2020年12月に、腰椎、大腿骨DEXAによる骨密度測定装置を新規導入しました。骨粗鬆症の診断、治療、骨折後の2次骨折予防のための治療強化などにも力を入れて取り組んでいます。

入院病床が限られるため、日常生活が不自由な状態での通院治療や、早期退院をお願いせざるを得ない場合があります。諸事情をご賢察の上、ご理解とご協力をお願い致します。

<手術実績 679件（令和3年度）>

骨折観血的手術	277件
人工骨頭置換術	50件
人工関節置換術	62件
脊椎手術	101件（うち脊椎内視鏡手術54件）
その他	679件

脳神経外科

副院長兼脳神経外科長 齋藤 桂一

<特徴>

当科では手術の必要な脳疾患や頭部外傷を中心に、広く地域医療に貢献することを目標としています。

<対象となる疾患>

脳卒中のうちくも膜下出血と脳出血、外傷は脳挫傷などの頭蓋内出血、慢性硬膜下血腫が入院患者の多数を占めます。外来診療では手術後の患者さんの経過観察や、かかりつけ医の先生方からの紹介による脳疾患の精査を行い、神経膠腫などの大がかりな治療が必要な患者さんには大学病院などへの紹介も行っています。また、専門外来として難治性てんかんの患者さんの治療を行っています（東北大学てんかん科：1ヶ月に1回）。

<設備>

診断機器：MR I、CT、DSA、ガンマカメラ、脳波計

手術機器；手術用顕微鏡（蛍光血管撮影つき）、神経内視鏡、定位脳手術装置

<手術件数>（令和3年度）

脳腫瘍摘出術	2 件
脳動脈瘤クリッピング術	6 件
脳内血腫摘出（吸引）術	0 件
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	53 件
水頭症手術	2 件
外傷性頭蓋内出血（開頭）	1 件
脳神経血管減圧術	0 件

<施設認定>

日本専門医機構研修プログラムによる研修施設（関連施設）

<スタッフ紹介>

医師名	役 職	資 格 等
齋藤 桂一	副院長兼脳神経外科長	脳神経外科専門医
藤原 和則	脳神経外科医長 第二リハビリテーション科長	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医
高橋 昇	脳神経外科医長	脳神経外科専門医
鮫名 勉	非常勤	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医

形成外科

形成外科長 本庄 省五

<特徴>

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損あるいは整容的な不満足に対して、「あらゆる手法や特殊な技術」を駆使し、機能のみならず形態的にもより健常に、より美しくすることによってみなさまの生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する、外科系の専門領域です。

当院の形成外科は、県内では岩手医科大学に次いで患者数が多く、日本形成外科学会の研修認定施設に認定されています。

<対象となる疾患>

口唇裂・口蓋裂症・眼瞼下垂症などの顔面先天異常、手足の先天異常、顔面骨骨折などの顔面外傷、皮膚悪性・良性腫瘍の切除と再建、切断指再接着を含む手の外科、褥瘡・難治性潰瘍、熱傷、瘢痕拘縮・ケロイドなど、関連各科・大学病院と協力・連携を保ちながら幅広く診療を行っています。

<診療内容>年間手術数は 228 例

★口唇裂・口蓋裂症は、周辺医療機関の認知度の上昇とともに患者数も増加傾向にあります。大学病院での約 20 年の経験を踏まえ積極的に治療にあたっています。関連各科と協力し、岩手医科大学の矯正歯科で生後早期から術前顎矯正を行い、生後 3 ヶ月前後で口唇形成術、1.5 歳前後に口蓋形成術、10 歳前後で歯槽裂部骨移植、高校生以降に最終的な修正を行っています。

★眼瞼下垂症は先天的な下垂の治療はもとより、最近のご高齢の方やコンタクト・レンズの長期間の使用による下垂症が増加してきています。まぶたが開きにくくなるため額にしわを寄せ、眉毛を挙げてものを見ようとするので、特有の顔貌となります。またこれが、肩こりや高血圧など他の疾患の誘因になっているとも言われています。比較的低侵襲の手術で治療効果が大きいので、高齢者の方にも施行可能です。

★顔面外傷の治療は、軟部組織損傷では目立つ傷跡が出来るだけ残らないように治療しています。骨折でも皮膚切開線ができるだけ目立たないように配慮し、骨折固定用プレートはあとで抜釘する必要のない、溶けて無くなる吸収性プレートを積極的に使用しています。

★手足の先天異常では、1 歳前後の小児の患者さんが中心となるため、安全な治療を第一に心がけています。また合指（趾）症では術後整容的に問題となる植皮術の必要のない皮弁法を用いています。

★手足の外傷は軟部組織損傷、骨折、腱損傷が多く、切断された指を手術用顕微鏡下に再接着する切断指再接着術にも対応しています。

★皮膚・皮下組織腫瘍は良性 100 例、悪性 16 例を治療しました。特に顔面の皮膚悪性腫瘍は、外科的治療による生存率の向上はもとより、できるだけ健常に近い顔貌になるよう形成外科的な手法を駆使して再建に努めています。

★褥瘡・難治性潰瘍の治療は、手術症例のみならず高齢者の褥瘡、内科的潰瘍を最新の創傷治癒理論に基づく治療で成果を上げています。また、褥瘡予防対策委員会を設け、看護科、薬剤科、栄養科、リハビリ科と協力して活動し、予防にも力をいれています。

<施設認定>

日本形成外科学会 教育関連施設（専門医取得可能）

皮膚科

皮膚科医長 丹治 峻之

皮膚科

<診療科の特徴>

先端医学技術を駆使して診断にあたる時代ですが、皮膚疾患の診断は“百聞不如一見”。まずは目で診て、手で診る（触れる）、耳で診る（聞く）、あるいは嗅いでもみるという五感が最たる診察道具です。生まれてから人生を全うするまでのあらゆる年齢層の頭のとっぺんから、足のつま先までの皮膚病変を扱います。

<対象となる皮膚疾患>

外来ではアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などの湿疹皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡などの水疱症、皮膚悪性腫瘍、伝染性膿か疹、带状疱疹、カポジ水痘様発疹症などの感染症、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎などの膠原病、さらには乾癬、蕁麻疹、脱毛症、真菌症など多岐にわたる皮膚科全般疾患を診療します。薬物療法の外に紫外線療法、アレルギー検査、皮膚生検など随時行っています。

<診療実績>（令和3年度）

有棘細胞癌	62 件
悪性黒色腫	36 件
その他の皮膚がん（基底細胞癌・Paget 病など）	109 件
1 日平均外来患者数	27 人
1 日平均入院患者数	1.6 人

泌尿器科

泌尿器科長 藤島 洋介

<特徴>

当泌尿器科では、主に腎臓、副腎、膀胱、前立腺、精巣などの泌尿器系臓器に生じたがんや結石、前立腺肥大症、末期腎不全診療を行っています。腎臓癌の体腔鏡（腹腔鏡）手術や前立腺肥大症のレーザー内視鏡手術、尿路結石に対するレーザー治療に特に力を注いできましたが、今年度から透析治療を開始しています。

<対象となる疾患>

前立腺肥大症、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、腎結石、尿管結石、膀胱結石、副腎腫瘍、停留精巣 など。

<診療内容>

1 前立腺肥大症

高齢男性の排尿困難の多くは前立腺肥大症によるものです。前立腺超音波検査、残尿測定、前立腺癌のスクリーニング検査などで病状を正確に把握した後に、症状に応じて経過観察、内服治療、手術療法を行います。

前立腺肥大症の手術としてレーザーを用いた HoLEP 手術を積極的に行っています。HoLEP 手術は従来の内視鏡手術に比べて出血が少なく体への負担が少ない上に治療効果も高く、国内で徐々に普及しつつありますが、県内で施行可能な病院は現時点ではまだまだ非常に限られています。

2 腎癌／腎盂尿管癌

当科には 2010 年 4 月より県内には数少ない日本泌尿器科 EE 学会 腹腔鏡技術認定医が着任し、腎癌／腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術を本格的に導入しました。腹腔鏡腎手術は従来の手術に比べて体への負担が少なく術後の回復も早いため、ほぼ標準的な術式として普及しています。

3 膀胱癌

膀胱癌は癌進行の程度によって治療方針が大きく変わります。早期癌は簡便な内視鏡手術のみで治すことができますが、癌が進行して大きくなってくると抗癌剤、放射線治療、開腹手術、苦痛緩和療法などのさまざまな方法を組み合わせる必要があり、治療期間も長くなります。磐井病院泌尿器科では、「最小の負担で最大の治療効果」をあげられるよう、さまざまな手術・治療法を駆使して治療に臨んでいます。

4 前立腺癌

当科では早期診断と早期癌に対する根治手術／放射線治療に力を入れています。また最新の低侵襲治療がふさわしいと思われる患者さんでは、必要に応じて近隣または県内外の各病院などを紹介可能です。

5 腎結石、尿管結石

近年の結石治療のめざましい進歩に伴い、当科でも平成 29 年より最新式の高出力レーザー機器を用いた内視鏡手術を導入し、f TULやPNLなど標準的な内視鏡手術に加え、最先端のECRIS手術も可能となりました。今後も手術件数のさらなる増加を見込んでおります。

6 腎不全

末期腎不全患者さんの血液透析管理、内シャント管理、腹膜透析管理を新たに開始しています。

<施設認定>

日本泌尿器科学会専門医教育施設

<診療実績>（令和3年度）

疾患名	術式	件数	疾患名	術式	件数
膀胱癌	尿路内視鏡手術	41	膀胱結石	尿路内視鏡手術	3
	開腹手術	1	腎結石	尿路内視鏡手術	1
腎癌/腎盂尿管癌	腹腔鏡手術	6	小児停留精巣	精巣固定術	0
	開腹手術	0	真性包茎	包茎手術	1
前立腺癌	開腹手術	3	陰嚢水腫	水腫根治術	6
	腹腔鏡手術	0	尿膜管	腹腔鏡手術	0
精巣癌	根治手術	1		その他手術	0
精巣捻転	精巣固定術	1	その他	開腹手術	2
陰茎癌	根治手術	0		尿路内視鏡手術	276
前立腺肥大症	HoLEP	9		その他手術	36
尿管結石	尿路内視鏡手術	64			

産婦人科

第一産婦人科長 加賀敬子

<特徴>

産婦人科は女性生殖器（子宮、卵巣、卵管、膣）、および関連した内分泌器官（視床下部、下垂体）を扱う診療科です。

現在、常勤医は産婦人科専門医 3 名、産婦人科専攻医 2 名の 5 名体制となっています。

当院産婦人科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州地方から宮城県北等にわたる総人口約 30 万人の医療圏を有しております。

産科分野においては、平成 23 年 4 月からは岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営を開始し、新生児科の協力のもとに早産を含めたハイリスク分娩に対応しています。また、妊娠・分娩・産褥期間の安心、安全を提供するために週 1 回の産婦人科、新生児科、および病棟スタッフとのカンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。令和元年 8 月には、これまでスタッフが一丸となって取り組んできた母乳育児推進活動が評価され、WHO(世界保健機構)とユニセフによる「BFH: baby friendly hospital (赤ちゃんにやさしい病院)」に認定されました。今後も継続した努力により更なる発展と洗練が期待されています。

婦人科分野においては良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応が可能です。良性腫瘍の治療においては、ほぼ腹腔鏡下手術を行っており、1kg を越える子宮筋腫に対しても腹腔鏡下子宮全摘術を行っています。悪性腫瘍に対しては、的確な診断に基づいた治療方針の決定をはかり、岩手医科大学、東北大学、宮城県立がんセンター等の高次医療機関、及び院内の放射線診断科・治療科、外科、内科、泌尿器科、緩和医療科等の各科と連携し、治療にあたっております。

<対象となる疾患>

産 科：正常、異常によらず妊娠にかかわる全般及びおおむね妊娠 33 週以降の分娩。

婦人科：感染症、腫瘍、月経困難症、内分泌異常、更年期障害、性器脱等の診断と治療。

<施設認定>

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）暫定研修施設

岩手県地域周産期母子医療センター

母体保護法指定施設

<診療実績>（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

手術件数：総手術件数 723 件（開腹手術 26 件、腹腔鏡下手術 146 件、経膣手術等 551 件）

分娩：570 件（うち帝王切開分娩 175 件）

放射線治療科

放射線治療科長 阿部 恵子

<特 徴>

放射線治療科は、2015 年 7 月より常勤（1 名）体制となり 7 年目を迎えようとしています。院内紹介のみでなく、近隣の病院からも幅広くご紹介をいただいております。直線加速器（リニアック）による X 線、電子線を用いた放射線治療（体外照射）のほか、骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する注射液（塩化ラジウム）も投与可能です。

対象となる疾患は 9 割以上が悪性腫瘍であり、治癒を目的とした根治照射、癌による疼痛や出血などの苦痛症状軽減のための緩和照射、乳癌の術後照射などをおこなっています。良性疾患も照射適応となることがあり、甲状腺眼症、ケロイドの術後照射などがその対象です。

R2 年度は新型コロナウイルス感染症の流行があり、再来については電話診察をおこなうこともありましたが、照射については滞りなく進めることができました。

令和 3 年度にはリニアックの更新もしており、これまで以上に地域の患者さんにとって有益な治療を提供していきたいと考えております。放射線技師、看護師とともに協力しながら日々診療に励んでいく所存です。

<スタッフ紹介>

1 医師名（職名）等

阿部 恵子 放射線治療科長 平成 17 年度東北大学卒

2 専門分野

X 線、電子線による体外照射

3 主な資格等

日本医学放射線学会専門医

<診療実績>放射線治療患者数(2021 年 1 月～2021 年 12 月)

乳癌	45 件
前立腺癌	26 件
肺癌	18 件
食道癌	11 件
膵癌	2 件
骨転移	50 件
脳転移	12 件
その他	46 件
計	210 件

画像診断科

画像診断科長兼放射線科長 照山 和秀

<特 徴>

画像診断科では、C T・MR I・血管撮影・核医学検査などの画像診断全般、画像ガイド下による生検やドレナージ、カテーテルを用いた血管内治療を1名の診断専門医（常勤）が担当しています。

<スタッフ紹介>

1 医師名（職名）等

照山 和秀 画像診断科長兼放射線科長 平成6年度東北大卒

2 専門分野

- (1) カテーテルを用いた血管内治療。（外傷や消化管出血、不正出血などに対する動脈塞栓術、透析シャント狭窄に対する血管拡張術など）
- (2) 画像ガイド下での生検やドレナージ。
- (3) C T・MR I・核医学などの画像診断。

3 主な資格等

日本医学放射線学会専門医

<2021年4月1日～2022年3月31日までの読影件数>

C T	3,939 件
MR I	1,192 件
シンチ	280 件
アンギオ	28 件
一般撮影	0 件
計	5,439 件

眼科

眼科長 今泉利康

眼科

<特徴>

眼科は視覚を担う感覚器を扱う専門領域です。眼瞼・眼窩・眼球・外眼筋・視神経と分野も多岐にわたります。健康で自立した生活を送るためには視覚情報は不可欠なものであり、高齢化が進行する現代社会においては、その役割はますます重要になっております。今後も地域の皆様の視力の向上に貢献できるように、視能訓練士、看護師とともに励んで参ります。

<対象疾患>

白内障 緑内障 網膜疾患 屈折異常 ドライアイ 他

<診療内容>

視力検査 前眼部検査 眼底検査 眼圧検査

レーザー治療 白内障手術 硝子体注射

<診療実績>

白内障手術 0 件 後発白内障手術 65 件 網膜光凝固術 39 件

硝子体注射 227 人

耳鼻いんこう科

耳鼻いんこう科長 池田 怜吉

〈診療科の特徴〉

当科は平成 30 年 4 月から耳鼻咽喉科医 2 人での常勤体制となり、令和 3 年 7 月からは 3 人体制で診療をおこなっております。良性疾患については、耳・鼻・咽喉頭手術と幅広く行っております。また悪性疾患に関しては、岩手医科大学、東北大学と連携し診療にあたっており、緊急手術が必要となる頸部膿瘍などの対応もしております。

〈対象となる疾患〉

耳：難聴、耳鳴、耳性めまい、中耳炎など

鼻：アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、嗅覚障害など

口腔、咽喉頭：扁桃炎、嗄声、味覚障害、口内炎など

頭頸部腫瘍：（口腔、咽頭、喉頭、鼻腔、唾液腺、頸部の良性・悪性腫瘍）

その他：顔面神経麻痺、唾石症、嚥下障害など

〈診療実績〉

内視鏡下鼻副鼻腔手術	69 件	唾石摘出術	3 件
鼻中隔矯正術	8 件	顎下腺摘出術	7 件
鼻甲介切除術	4 件	耳下腺腫瘍摘出術	2 件
鼻茸摘出術	1 件	リンパ節摘出術	4 件
涙嚢鼻腔吻合術	1 件	鼻腔粘膜焼灼術	23 件
鼻骨骨折整復固定術	4 件	鼻内異物摘出術	1 件
口蓋扁桃摘出手術	54 件	扁桃周囲膿瘍切開術	15 件
アデノイド切除術	8 件	咽頭異物摘出術	8 件
先天性耳瘻管摘出術	9 件	外耳道異物除去術	8 件
鼓膜切開術	4 件	硬性内視鏡下食道異物摘出術	0 件
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	29 件	深頸部膿瘍切開術	2 件
喉頭直達鏡下喉頭微細手術	7 件	気管切開術	4 件
喉頭ファイバー検査	940 件	穿刺吸引針細胞診	66 件
鼻腔ファイバー検査	854 件	組織生検	69 件
嚥下内視鏡検査	25 件		

総合診療科

総合診療科長 加藤 博孝

2017 年 1 月より総合診療科の外来を開設しました。

【磐井病院総合診療科の概要】

当院は、2016 年 4 月から総合診療科の診療を開始しました。

2018 年 4 月より新専門医制度がスタートし、「総合診療専門医」の専門研修が開始されました。当院は岩手県南部総合診療医育成プログラムの基幹施設となっています。

2022 年 4 月 1 日から、岩手県の総合診療プログラムは岩手医科大学救急総合診療科が中心となり、岩手県全体で運営することになりました。当院は、岩手県統一プログラムの機関施設となります。

「総合診療」は、「病院総合診療」、「家庭医療」、「救急医療」に分けられます。共通点は「臓器・疾患にとらわれずに全人的な医療を提供する」ことです。日本全国でみると病院の総合診療科では、3 つの比率がそれぞれ異なり、診療内容は施設ごとにまちまちです。

当院の総合診療科は「病院総合診療」の比重が大きいです。救急医療は、「救急科」が対応しており、「家庭医療」は行っておりません。

当院総合診療科は、複数の健康問題を持っている患者さん、原因不明の発熱や病態不明の患者さんについて院内の各診療科と協力して診療しています。

2020 年度より臨床初期研修において 1 か月間の「一般外来研修」が義務化されました。初期研修医の一般外来研修の一部を総合診療科で担当しています。臨床問題や診断が特定されていない初診患者の外来診療を研修医が、病歴を聴取→身体所見から、臨床推論を行い、計画立案に至るまでの過程を実地で訓練します。研修医が、患者さんならびにご家族への接遇やメディカルスタッフと協働し、親しまれる医師を育てるよう行動しています。

原因不明の発熱・浮腫・体重減少など、診療科が決まらない主訴や病態の患者さんにつきましては、総合診療科医師に直接相談いただければ幸いです。

→総合診療科医師直通：08032125193（平日 9:00-17:00、および緊急時）

主な診療実績（令和年度）

	令和 2 年度	令和 3 年度
禁煙外来初診患者	19 人	20 人
新患者数	28 人	31 人

磐井病院総合診療外来

予約方法	総合診療科医師直通： 08032125193（平日 9:00-16:00, および緊急時） 磐井病院予約センター： 0191-23-3453（平日 9:00-17:00）
外来	平日 9:00-16:00 予約制
対象疾患	● 原因不明の発熱・浮腫・体重減少など、診療科が決まらない主訴や病態の患者 ● 複数の健康問題をもった患者さんの診療 ● ニコチン依存症に対する禁煙外来 ● 外科疾患：甲状腺、乳腺、鼠径部ヘルニア、肛門疾患（内痔核の日帰り手術） ● 成人の予防接種 ● 外来がん薬物療法（緩和医療科と連携）
診療概要	院内の各診療科、医療相談室、地域連携室と連携 院外へのコンサルテーションもしながら患者さんの健康問題解決を図る
医師	加藤博孝（総合診療指導医，外科学専門医，感染コントロールドクター，岩手医科大学臨床教授） 高崎映子（内科専攻医）
入院対応	入院が必要な場合は、院内の診療科あるいは院外に依頼する

研修医外来

- 半日で、1 から 2 名の患者さんを指導医とともに診察→指導医とともに mini-CEX で評価
- EPOC-2 での評価
- 主治医意見書記載
- 苦痛のスクリーニング
- 新患は、Ubie 問診システムを使用
- 救急外来で診察した患者さんの再診
- 感染症症例検討会での講師
- AST 症例検討会の症例まとめ

総合診療科週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
7:45				感染症症例検討会			
8:30-9:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング		
9:00-12:30	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集		
12:30-13:30	休息	休息	休息	休息	休息		
13:30-15:00	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集		
15:00-16:00	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー		
16:15	AST 症例検討会						
17:15							

脳神経内科

第1神経内科長 川守田 厚

<特徴>

岩手県南、宮城県北の救急を受け入れている総合病院で脳神経内科の常勤医がいるのは数カ所であり、その中で神経疾患の救急対応をしているのは当院だけとなっており、そのため当科の入院患者の大部分は脳血管障害、けいれん、意識障害などの救急患者で占められています。その一方、自己免疫性神経疾患、脱髄性疾患などの専門的な疾患に関しては、免疫グロブリン大量療法、免疫吸着療法など特殊な治療も行っております。

外来はパーキンソン病、てんかんなど専門知識を必要とする慢性疾患の患者が多く、他院に診療依頼をすることが困難なことが多くなっております。最近では認知症の診断、治療の依頼が多くなり、院内でも認知症サポートチームの一員として活動しております。

<対象となる疾患>

代表的な疾患

脳血管障害（脳血栓症、脳塞栓症、一過性脳虚血発作など）

認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、血管性認知症など）

脳変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）

脱髄疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）

頭痛、てんかん

脳炎、髄膜炎

眼瞼痙攣（がんけんけいれん） 片側顔面痙攣（けいれん）

末梢神経障害（ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎など）

筋疾患（筋炎、筋ジストロフィーなど） 脊髄疾患

<診療内容>

外来受診には基本的に紹介状が必要となります。CT, MRI 等の検査は検査日を予約して受けていただきます。筋電図、神経伝導速度の検査は毎週火曜日に行っています。外来診療は岩手医大神経内科教室、北上済生会病院等より応援を頂きながら当院の脳神経内科医師の一人が外来担当医として診療を行っております。急患の対応等で予約時間内に診察が困難な状況になることがありますのでご理解をお願いします。

<診療実績>（令和3年度）

患者	入院（延べ）	4,470	人	検査治療	t-PA	0	件
	退院	307	人		ボトックス	34	件
	外来	4,097	人		MRI	1,179	件
	新患	260	人		CT	764	件

救 急 科

救急科長 片山 貴晶

<診療科紹介>

救急科では中村紳副院長、および片山貴晶救急科長、前川慶之災害医療科長の3人の救急科専門医を指導医として、後期研修医、二年次研修医及び一年次研修医とともに、主に救急外来を受診された患者様の診療および入院管理を担当しています。日中、救急外来での患者対応はほとんどすべて当科で担っております。入院患者には急性薬物中毒や外傷の患者様も多く、少ない人数で日々多忙を極めております。当地域の医療事情を鑑みて、薬物中毒や外傷、熱傷など専門的な診断・治療が必要な急性期疾患はもちろんのこと、不明熱や専門的治療が必要のない肺炎や尿路感染症などの急性疾患や心不全などの慢性疾患、当院に常勤医師不在の血液、腎・内分泌疾患など、また社会的に入院が必要な高齢の患者様の看取りの含めた入院管理など幅広く担当しております。

<診療実績>（令和3年度）

入院患者数：520 人
入院患者死亡数：55 人
救急車・ドクターヘリによる患者収容件数：2,693 件
救急外来での心肺停止症例の治療実績：84 人

<学会認定施設>

日本DMAT指定施設

歯科口腔外科

歯科口腔外科長 中山 温史

<特徴>

当科は岩手県南地域の中核病院として、大学病院や関連病院、また地域の歯科医師会等と連携しながら各種疾患に対応しております。

外来診療や全身麻酔下での手術のほか、歯科治療恐怖症の患者様に対しましては、麻酔科と連携しながら静脈内鎮静法を積極的に取り入れ、治療に対する不安軽減に努めております。また有病者（他科で治療を受けている方）に対しましても専門知識や治療経験を活かして対応しておりますので、安心して治療を受けていただくことができます。

さらに、周術期口腔機能管理として、がん等に係わる手術または放射線治療、化学療法や緩和ケアを実施する患者様に対しての治療も行っております。

☆当科は日本口腔外科学会より認定関連研修施設の施設認定を受けております。

<対象となる疾患>

埋伏歯等、顎顔面損傷、炎症性疾患、アレルギー疾患、感染症、口腔粘膜疾患、のう胞および類似疾患、腫瘍および類似疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経系疾患、歯科治療恐怖症など

歯科口腔外科診療実績（令和3年）

外来患者数	4,296 名
入院患者数	77 名
全身麻酔症例	89 件
静脈内鎮静症例	48 件

麻 酔 科

中央手術科長 須田 志優
麻酔科長 叶城 倫子
(歯科医師) 佐藤 璃奈

<診療科紹介>

麻酔科では術中管理を中心に、周術期全般に渡る患者の全身管理を担当科と協力して行っております。

令和3年1月から12月までの1年間に、自施設の研修医3名と東北大学病院の研修医2名による麻酔研修、奥羽大学歯学部から歯科医師1名の医科麻酔科研修を受け入れました。今後も岩手県立中央病院・岩手医大・東北大の基幹研修施設・関連研修施設として専攻医・研修医・歯科麻酔科医の育成等に励みたいと考えております。

上記と併せて、救急救命士等の研修を行い、令和3年は一関市消防本部に所属する救急救命士等に対して再教育実習(13名)及び気管挿管実習(2名)、久慈広域消防本部に所属する救急救命士のAWS挿管実習(2名)を受け入れました。

<診療実績> (2021年1月～2021年12月)

麻酔法	症例数
全身麻酔(吸入)	293 例
全身麻酔(TIVA)	986 例
全身麻酔(吸入)+硬・脊・伝麻	133 例
全身麻酔(TIVA)+硬・脊・伝麻	156 例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	35 例
硬膜外麻酔	0 例
脊髄くも膜下麻酔	65 例
伝達麻酔	1 例
その他	60 例
合 計	1,729 例

<学会認定施設>

日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院

日本歯科麻酔学会認定研修機関